

大切な人が入居される
ご家族の皆様へ

社会福祉法人 まこと

地域密着型特別養護老人ホーム しあわせの家寒川

はじめに

この度は、しあわせの家寒川への入居をご希望いただきまして誠にありがとうございます。ご家族の皆様にとって大切な人が入居する当施設の支援（サービス）に対する考え方についてお伝えさせていただきます。

まず当施設がどのような施設であるかということについてご説明します。

一般的に「施設」は、決められた時間に生活行為（起床、食事、排泄、入浴、就寝等）を集団で行う場所というイメージがあるのではないのでしょうか。しかし、当施設は違います。当施設はユニット型施設となります。ユニット型施設とは、10名前後の少人数をひとつの生活単位（擬似家族）として、家庭的な雰囲気の中で、入居者ひとりひとりの望む暮らし（一日）を実現しようとする施設です。従って、スタッフの都合を優先して入居者の皆様に生活行為を強要するようなことはありません。それぞれの入居者の希望（ご自分で表現することができない方の場合には、これまでの生活習慣やご家族様の希望）「以下（入居者の希望）とする。」する暮らし方を聴き取り、それに応じて必要な支援を提供するということとなります。

支援（サービス）の考え方については、一日の暮らしの場面ごとに以下に説明します。

1. 起床

「朝の目覚め」から一日は始まります。朝早く目覚める人もいれば、ゆっくりと目覚める人もいると思います。前日に夜更かしすれば次の日の朝はゆっくりと眠りたいと思うかもしれません。目覚めた後にしばらくベッドで過ごされる人やすぐに着替えをして顔を洗う人もいるでしょう。そういった一人一人の違いにそって支援します。一般的な施設では朝食の時間から逆算して、それまでに全ての方に起きて頂くということが当たり前のように行われていますが、そのような支援はいたしません。入居者の希望に沿って「起きたい時間に起きる」が大原則となります。

2. 着替え

各ユニットは入居者の方にとっては「家」になります。常にリラックスできる部屋着等で過ごしたい方、就寝時にはパジャマを着用したい方、外出の際に余所行きの服に着替えたい方など様々だと思えます。汚れた際や、入浴の際に着替えるということは当然ですが、それ以外の着替えについては、それぞれの入居者の希望に沿って支援します。

3. 身だしなみ・整容

身だしなみ・整容については、人が人前に出るときにどのようにするかを考えます。お部屋で身だしなみや整容をすることはもちろんですが、女性の場合にはお化粧品をしたい方もいらっしゃると思えますので、入居者の希望に沿って支援します。

4. 朝食

朝食は、起床のリズムに応じて召し上がっていただけるように準備します。ただし、この点については一般の家庭と違いがあります。それは、衛生管理上の食事の保管時間が法律で定められているという点です。基本的には、食事が出来上がってから 2 時間の保管時間の範囲で食べたい時に食べるという形になります。食事を食べる場所については自由です。お部屋で食べたい方がいればお部屋で食べていただいても結構です。ただし、スタッフの人数に限りがありますので、危険と判断する場合にはダイニングで召し上がっていただくことをお願いすることになります。食事全般に共通することとして、調理は給食会社に業務委託することになりますが、調理された物の盛付はそれぞれのユニットで行います。また、食器については施設で準備しますが、個人用のお茶碗・お箸を持ち込んでいただくことで、より家庭的な雰囲気になると考えていますのでご協力をお願いします。その他、入居者の嗜好品をお持ちいただければ、間食・夜食も対応いたします。

尚、入居者の疾患に応じた食事や水分の制限がある場合には、対応方法について都度相談させていただきながら、入居者にとって最善の方法で対応したいと考えています。

5. 口腔ケア

口腔ケアは、口腔衛生が様々な疾患の予防に効果があることから大切であると考えています。入居者の口腔衛生状況をしっかりと把握して適切に支援したいと考えていますが、その頻度や方法については、入居者の希望もお聞きしながら検討します。また、その検討にあたっては、看護職員や施設の協力歯科医院である「あき歯科医院」の加地先生にも相談します。尚、口腔ケアの実施については、リビングにある洗面台で順番に対応するような効率的な方法ではなく、口腔内を人に見せることの恥ずかしさに配慮し、原則として居室の洗面台を使用して行います。使用されるコップや歯ブラシ、歯磨き粉等については持参していただくこととなります。

6. 排泄ケア

排泄はもっともプライベートな行為で他人に見られたくないはずですが、入居者の「恥ずかしい」という気持ちに配慮して、いつ排泄をしたのかわからないようなさりげない支援を目指します。また、人の排泄パターンは人それぞれですので、その人の排泄パターンをしっかりと見極めながら支援の時間設定や入居者の特性に応じた適切な種類の排泄用具を準備します。

7. 昼食

昼食についても朝食と同じです。「食べたい時に食べたい場所で食べたい量を食べる」というのが基本になります。ただし、皆さんが活動している時間帯となることから自然と同じくらいの時間に集まるようになることが多いようです。

8. 入浴

毎日お風呂に入りたい方もいれば、二日おきでいいという方もいるかもしれません。ゆっくりとお湯につかりたい方もいればサッと済ませたい方もいると思います。また、眠る前に入りたい方もいれば日中に入りたい方もいるでしょう。基本的には入居者の希望を尊重して支援したいと考えています。ただし、安全面から考えてスタッフの人数等によっては対応が難しい場合も起こる可能性があることについてはご理解ください。尚、入浴に使用する道具については、ご自分用の物を用意していただくことになります。

※使用する道具（入浴カゴ・ブラシ・ボディソープ・シャンプー・リンス等）

9. 健康管理

健康管理を主に担うことになるのは、嘱託医師と看護職員になりますが、日頃の入居者の状態を一番間近で見ているのは介護職員です。介護職員がしっかりと観察して、入居者の状態に変化があれば看護職員に連絡し、担当医師に報告・相談する等、チームで連携をとって支援することになります。

ただし、施設は病院ではなく暮らしの場ですので、入居される方の暮らしの質を落とすことに繋がらないように、入居者が希望する暮らしを尊重するというを基本としながら、入居者の既往歴等から予防的にかかわることが大切になると考えています。

尚、当施設の医療体制は以下の通りとなっています。

嘱託医師 2 名 ・ ・ ・ みよし循環器クリニック 三好 Dr、福田医院 福田 Dr)

※どちらかの医師が担当医となります。

協力病院 ・ ・ ・ 四国中央病院・HITO 病院

協力歯科医院 ・ ・ ・ あき歯科医院 加地 Dr

10. 昼間の過ごし方・趣味的活動

空白の時間があるについ「何かしなくては」と考えがちですが、ゆっくりお茶を飲んだり、何気なくテレビを観て過ごす時間も暮らしの一部だと考えています。一人で過ごす時間は暇を持て余しているように見えても実はそうでない事もあります。こうした何もしない自由も大切ではありますが、「楽しい」と感じていただけるような活動を企画して提供することも大切になると考えています。季節を感じるができるような行事の企画、趣味的活動の企画、外出の機会を増やす企画等に取り組み、入居者の希望を確認しながら暮らしの中で「楽しみ」を感じていただけるように支援をします。ただし、子供じみた集団レクリエーション等に強制的に参加を促すような手法は適切ではないと考えています。

11. 快適な環境づくり

リビング・ダイニングといった場所（セミプライベートスペース）については10名程度が共有する場所であり、個々の入居者の意向を反映することは難しくなりますので、清潔感のある衛生的な空間をつくれるように支援します。居室は完全なプライベートスペースとなります。このプライベートスペースである居室は入居者が快適と思える環境に設えることが大切です。例えば、使い慣れた家具を持ち込んでいただくことで入居者が安心する場合もあります。装飾品の持ち込み、床にカーペットを敷いてもらってもかまいません。居室は入居者・ご家族の皆様で自由に設えていただきたいと考えていますので、予め居室に備えている家具等はベッドと収納タンスのみになります。カーテンについても入居される際にご準備いただくこととなります。

※ 居室を自由に設えていただきたいと考えてはいますが、建物そのものを傷つけることはご遠慮ください。また、スペースに限りがありますので予めスタッフに相談していただくことをお勧めします。

12. 機能訓練・リハビリ

個人差はありますが加齢に伴って身体機能は低下します。特に高齢になると活動量が低下することで廃用性機能低下（身体を使わないことによって身体機能が低下する）を起しやすくなります。そのような状態にならないように機能訓練やリハビリを行うこととなりますが、当施設は病院ではありませんので病院のリハビリ室で行われるような機能訓練は実施しません。廃用性機能低下は身体を使わないことによって身体機能が低下しますので、できるだけ身体を使うこと（生活行為を増やすこと）がリハビリになるという考えのもとで支援をします。それぞれの入居者の出来ること（生活行為）を引き出す支援が機能訓練になっていると考えています。

13. 夕食

「食べたい時に食べたい場所で食べたい量を食べる」というのが基本になりますが、昼食と同様に自然と同じくらいの時間に集まるようになることが多いようです。夕食の場合には晩酌を希望される方がいるかもしれません。入居者の希望があり、家族の同意を得ることが出来ればお酒の提供も全く問題ないと考えています。ただし、度を越して体に悪影響があったり、他の入居者の方に迷惑となるような場合には控えていただく場合があります。

14. 就寝までの過ごし方

入居者の過ごしたいように自由に過ごしていただきます。お茶を飲んだりテレビを見たりして、リビングで過ごされる方や居室で過ごされる方もいるかもしれません。スタッフの都合で早くベッドに入ってもらおうようなことは一切ありません。

15. 就寝

一定の時間になると廊下などの電気を消すことはあっても、就寝時間という決まりはありません。眠れない夜があってもいいと考えています。「眠くなったら眠る」この当たり前の暮らしを支援したいと考えています。

16. 睡眠

睡眠不足では活動量が低下することにも繋がってしまいますので、健康的な暮らしを実現するためには、睡眠の質を高めることが大切であると考えています。眠りを妨げるような巡回や睡眠中の排泄介助・寝返り介助等については、できる限り睡眠を優先しながら適切に支援したいと考えています。そのための設備として、入居者の生体情報（呼吸・心拍数）と睡眠の状態（深い眠り・浅い眠り・目が覚めている等）をモニターできる「眠りスキャン（パラマウントベッド製品）」を導入しています。これによって、排泄介助や寝返り介助についても、入居者が深い眠りに入っている状態を避けて対応することが可能になります。

17. 面会

スタッフが入居者に対して最善の支援をしていくためには、ご家族との情報交換がとても大切になると考えていますし、何より入居者にとってはご家族と過ごす時間が精神的な満足にも繋がります。ご都合の許す限り、遠慮なく施設に訪問していただければと思っています。

終わりに

当施設の支援（サービス）に対する考え方についてご説明させていただきました。私たちは、「自分の大切な人が安心して暮らせる場所をつくろう」を合言葉に、誰に対しても誇れるサービスを提供して、入居される方やそのご家族の皆様に関心から満足していただけるように、スタッフが一丸となって理想を追い求めていきたいと考えています。この理想は、入居される方が安心して暮らすための環境づくり（お部屋の設え）や適切な支援に繋げるための情報提供（入居者の生活歴情報、希望等）において、ご家族の皆様の協力がなくては実現することができません。ご家族の皆様におかれましては、当施設の支援に対する考え方をご理解していただいた上で、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人まこと
地域密着型特別養護老人ホーム しあわせの家寒川
施設長 篠原 徹